

## やけど(火傷・熱傷)をしたとき

つかまり立ちをはじめた頃よりやけどをする機会が増えてきます。乳幼児は体が小さいため、やけどの占める面積が広くなりやすく、深いやけどになりやすく、そして重症になりやすいことが特徴です(重症度の判断が難しい)。

テーブルの上のお茶やスープをこぼしたり、歩きはじめると炊飯器の蒸気、アイロン、ファンヒーター、フライパンなどに触ったりしてやけどをします。また浴槽への転落など、思わぬお子さんの行動によりやけどは起こるものです。周囲の不注意でやけどをさせることがほとんどですので、日頃からの**事故防止に気を付けなければいけません。**

軽いやけどの場合は皮膚があかくなり、はれぼったくなり、熱感と痛みがあります。もう少し深いやけどになると、水ぶくれができ、水ぶくれの底の面が赤くなったりします。もっとひどくなると水ぶくれの底が白く見えたり、黒っぽくなります。

# やけど(火傷・熱傷)をしたとき

- 指先だけなど、やけどの範囲がお子さんの手のひらより狭い
- 赤くなっただけで水ぶくれがない

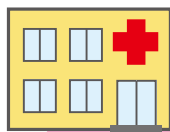
※やけどをした部分をよく冷やして下さい。



一晩家で様子を見て医療機関の診察時間になってから受診してもかまいません。

- やけどの範囲がお子さんの手のひらより広い
- 顔、手足の関節部分、外陰部のやけど
- やけどの部分が白くなったり、または黒くなっている
- やけどの重症度の判断がわからない

※水ぶくれができなくてもつぶさずに、水道水や氷水で冷やしながらか、受診して下さい。



小児救急対応医療機関を受診

- やけどの範囲が大人の手のひらより大きいとき
- やけどの部分が黒くなっていたり、白くなっている
- やけどでショック状態になっている

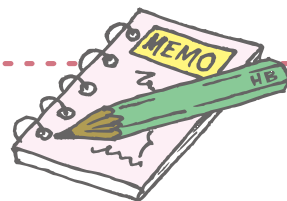
※皮膚に衣服がついていても、無理に衣服を剥がさずに水道水や氷水で冷やして下さい。



救急車を呼ぶ

## 医師へ伝えてほしいこと

- いつ、どこで、やけどの原因は？



やけど

## やけど(火傷・熱傷)のときの 家での対応と注意点

- やけどをしたときは、すぐに流水(水道水)や氷水を入れたナイロン袋やタオルで10分以上(可能なら30分)冷やして下さい。衣服などは無理に脱がさず、衣服のままで冷やして下さい。十分に冷やしてから、水ぶくれはつぶさないようにして医療機関を受診しましょう。

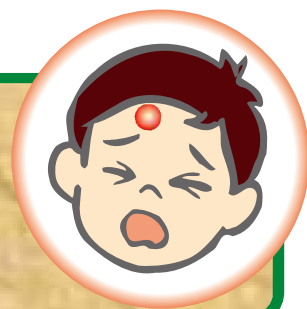
### 〈事故防止のチェックポイント〉

- 浴槽の残り湯は抜いておく。
- ストーブや熱源に接触できないようにする。
- ポットや炊飯器は手の届かないところに置く。

### ！ 看護のポイント

- まず、流水(水道水)や氷水を利用して痛みがなくなるまで十分に冷やします。痛みなど、早く冷やし始めるほど効果があります。範囲が狭く、赤くなった程度のやけどであれば流水で十分冷やすだけでも痛みがとれます。
- 湯たんぽやカイロなどに長時間触れたためにできた低温やけどは、小さくても皮膚の深くまで進行していることがありますので、医療機関を受診して下さい。

## あたまをうったとき (頭部打撲)



乳幼児は転んだり、階段・椅子・ベッドから落ちて頭を打つことがよくあります。すぐに大きな声で泣いて、意識がしっかりしていればまず安心です。頭を打った後は、まず意識がしっかりしているかどうかに注意して下さい。乳幼児ですぐ大きな声で泣いている場合は、意識があると考えてよいでしょう。この時、大きく体を揺さぶってはいけません。すぐに泣かずにウトウトして眠りがちであったり、吐いている時は要注意です。

転落した場合は、身体の他の部分を打っている場合もありますので、頭以外にも打撲等がないかどうかを確かめて下さい。周囲の不注意で起こることがほとんどですので、日頃からの事故防止に注意しましょう。



# あたまをうったとき(頭部打撲)

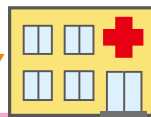
- すぐに大きな声で泣いた、その後食欲もある、動き回っている
- 大きなたんこぶができた
- 意識がしっかりしている
- 吐いたり、他の症状がない



一晩家で様子を見て医療機関の診察時間になってから受診してもかまいません。

- 意識がしっかりしているかどうか判断できない
- 不機嫌な状態がつづく
- 吐き気が続く、吐く、食欲がまったくない
- あたまをすごく痛がる
- 手足の動き方がいつもと違いおかしい
- 打った部分がへこんでいる
- 傷口からの出血が止まらない

※頭部以外の打撲にも注意して下さい。



小児救急対応医療機関を受診

- うとうとしたり、意識がない(すぐに泣かないなど)
- けいれんがある
- 呼吸状態がおかしい
- 傷口からの出血がひどい

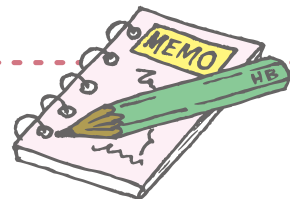
※できるだけ体を動かさないようにして、救急車を待ちましょう。



救急車を呼ぶ

## 医師へ伝えてほしいこと

- どこから落ちた? どこで転んだ?
- どれくらいの高さから落ちた?
- 打撲した場所は、たたみの上、じゅうたんの上、フローリングの上?



## あたまをうったとき(頭部打撲)の家での対応と注意点

- 頭部を打った後、すぐに泣いて意識がしっかりしており、食欲もある場合は様子を見ても大丈夫です。
- 体をゆすったりたたいたりしないようにしましょう。
- 頭皮は血管に富むため、手足の傷に比べると意外に出血が多いものです。出血がある場合は、傷の広さ、深さなどの状態をよく観察し、乾いたタオル等で強く圧迫しながら、医療機関を受診しましょう。
- たんこぶがあれば冷やして下さい。
- 当日は安静にして入浴も控えてください。
- 時間がたってから症状がでることもありますので、安静にして数時間は注意深く様子を見ましょう。
- 頭部以外の他の部位の打撲がないかどうかにも注意して下さい。

### 〈事故防止のチェックポイント〉

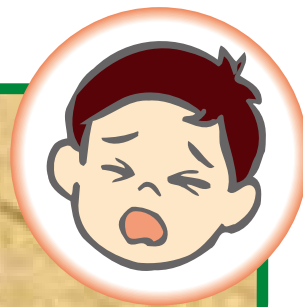
- ベランダや窓際に踏み台になるものを置かない。
- 階段などには手すりを設置する。

## ！ 看護のポイント

- 急を要する状態でなかったとしても、その後、食欲や機嫌の程度、目の動き(左右差がないか)や手足の動きが方がいつもと様子が違わないか等、1週間くらい(最低でも2、3日)は注意深く観察して下さい。吐き気や嘔吐があったり、いつもと様子が変わることがある場合は、医療機関を受診してください。



## 異物を飲み込んだとき (異物誤飲)



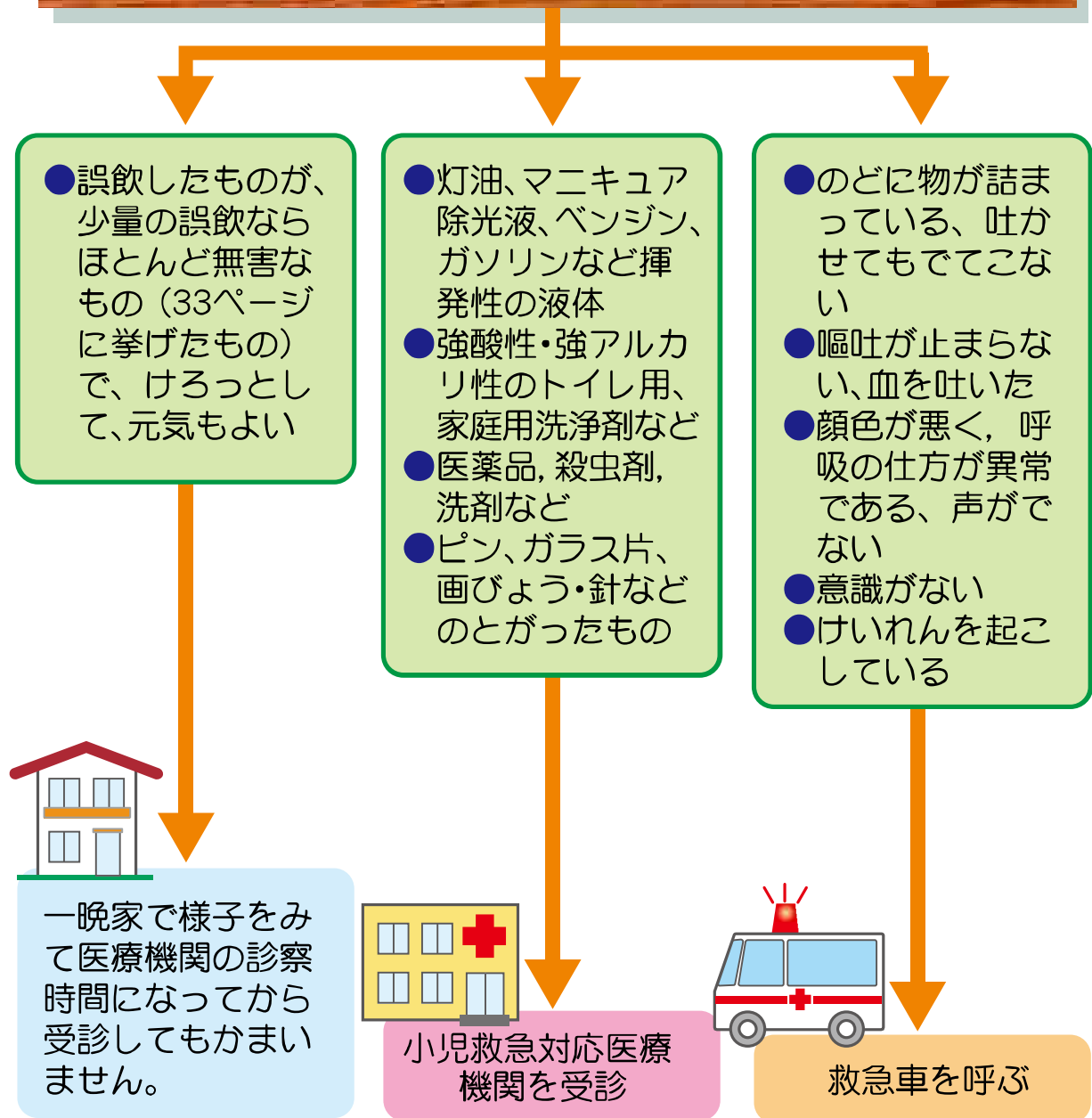
1～2歳くらいまでの子どもは何でもなめま  
すし、口に入れるくせがあります。それを考え  
て、家庭での赤ちゃんの事故を予防しましょう。

万一誤飲したら、飲んだものによって対応が  
違いますので、まずは何を飲んだかを確認しま  
しょう。周囲をチェックして何を飲んだかを調  
べて、どのくらい飲んだかを確認します。それ  
から、かかりつけ医に電話をして、飲んだもの  
やその量、赤ちゃんの症状などの状況を説明し、  
救急処置を聞いてから、飲んだものの容器を持  
って受診してください。

気管内異物とは、のどの奥や気管内に誤って  
異物を飲み込んだ状態をいいます。症状として  
は、激しいせき込み、呼吸困難、窒息があります。  
症状が軽くても、あとで肺炎などを合併するこ  
とがあります。原因は、ピーナツなどの豆類(75  
%)が多く、その他(おもちゃの部品、小玩具な  
ど、21%)があります。こんにゃくゼリーも乳  
幼児では窒息の原因となり得ます。



# 異物を飲み込んだとき（異物誤飲）



## 医師へ伝えてほしいこと

- どんなものを、いつ、どれ位の量飲んだか？
- おう吐はあったか
- いつもと様子がおかしいか

※誤飲した残りのもの、容器や袋、説明書などを持参する



## 少量の誤飲ならほとんど無害なもの

- 誤飲したものが下記のもので、けろっとして、元気もよい場合は様子を見てください。1グラム未満や1ミリリットル未満の誤飲であれば、ほとんど無害です。  
インク、クレヨン、絵の具、鉛筆、消しゴム、マーカー  
ペンのインク、粘土、墨汁、のり、石鹸、口紅、クリーム、ファンデーション、化粧水、香水、オーデコロン、  
ベビーオイル、乳液、ベビーパウダー、はみがき粉、  
靴墨、シャンプー、ヘアートニック、マッチ、ろうそく、  
シリカゲル、保冷剤、冷蔵庫脱臭剤、防臭剤、台所用  
液体洗剤、食用油、線香、蚊取りマット、花火、体温計  
の水銀
- 防虫剤も 1 個以下ならまず心配ありません。
- 但し、大量に飲み込んだ場合は、嘔吐、下痢、腹痛などの症状が出て注意を要する場合があります。



## 異物を飲み込んだとき(異物誤飲)の 家での対応と注意点

- 誤飲など事故防止をすること  
何が危険であるかを日頃から注意して、危険なものは子どもの手の届くところに絶対に置かないことが一番大切です。

### 〈危険なもの例〉

誤飲チェック穴(直径約4cm以下)を通るもの、薬、たばこ、コイン、洗剤、化粧品、指輪やピアスなどの装飾品、小さなおもちゃの部品、電池、ピーナッツなどの豆類等



## ●誤飲の際の対応のポイント

誤飲した時には、コップ1杯程度の水や牛乳を飲ませ、吐かせるのが原則ですが、例外もあるので注意が必要です。

誤飲したもの	対応のポイント
農薬、殺鼠剤、殺虫剤、防虫剤	脂溶性なので牛乳を飲ませてはいけません。
除光液・灯油・ガソリン・ベンジン等の揮発性物質	吐いたものが気管に入り肺炎などを起こすので吐かせないでください。何ものませず小児救急対応医療機関を受診してください。
トイレ用洗剤・漂白剤等の強酸・強アルカリ	牛乳や卵白を飲ませる。 無理に吐かせようとする、食道などの粘膜を再び痛めるので吐かせないで、小児救急対応医療機関を受診してください。
大部分の医薬品等	水や牛乳を飲ませて、のどの奥を刺激してすぐに吐かせてください。
パラジクロルベンゼン・ナフタリン・防虫剤等	防虫剤等は油に溶けやすく、牛乳を飲ませると毒物の吸収を早めるため、牛乳は飲ませないでください。吐かせてください。
タバコ	原則として何も飲ませず、吐かせてください。
安全ピン、ガラス片、針、画びょう等	吐かせないで、小児救急対応医療機関を受診してください。

## ！ 看護のポイント

### 〈誤飲や窒息の場合の吐かせ方のポイント〉

- ① 落ち着いて、何を飲み込んだのかを周囲にあるものが推測する。口の中を見て、取り除けるようであれば取り除く。
- ② のどにものがつまっていたら、乳児の場合では、左腕に子どもをうつぶせで抱きかかえ、頭を下向きにし、口に指を入れて、舌の付け根を下へ強く押す。または、その姿勢のまま背中を平手で強く4～5回たたく（背部叩打法）。
- ③ 1歳以上の子どもの場合は、背後から子どもを抱きかかえるように両腕を体にまわし、コブシをお腹の胃のあたりに当て、上後ろ方向へすばやく強く引き上げる（ハイムリッヒ法）。



## 背部叩打法

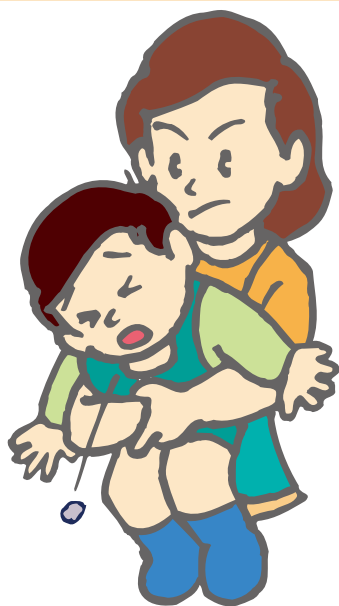
背中を平手で強く4~5回たたく。

〈乳児の場合〉

〈少し大きい子の場合〉



## ハイムリツヒ法(1歳以上の子どもの場合)



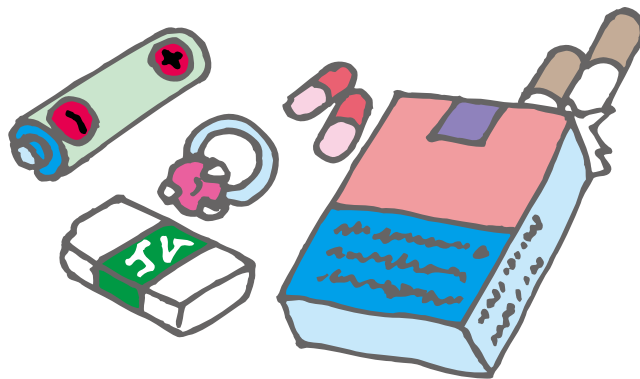
コブシをお腹の胃のあたりに当て、上後ろ方向へすばやく強く引き上げる。

## 誤飲のなかで一番多いタバコの誤飲

子どもの誤飲事故の中でタバコの誤飲は多く、1歳未満に限ると約70%はたばこ誤飲です。タバコ誤飲の大半は親の不注意により起こっています。

軽症では嘔気やめまい、脈が速くなったり、呼吸数も多くなるなどの症状があり、興奮症状が見られます。ひどくなると、脈が遅くなり、けいれんや意識障害、さらに呼吸抑制などの症状が見られます。また、中毒症状は2～4時間の間に見られるとされています。

- ニコチンの致死量は乳幼児で10～20mgです。紙巻きタバコ1本のニコチン含有量は10～20mgであるため、乳児の致死量に匹敵します。
- タバコの葉を2cm以上食べた場合や吸い殻をつけてある水(ニコチンの浸出液)を飲み込んだ場合は中毒作用が強いため、胃洗浄することが原則とされています。



## タバコ誤飲時の家での対応と注意点

タバコは味もまずいため、たくさん食べていることはまれです。誤飲しても初期症状の嘔吐が起これるので、致死量のニコチンが吸収されることはまれです。

誤飲したら、まず最初に、いつ、どのような性状のタバコ（葉なのか、吸いがらなのか、吸い殻をつけてある水なのか）を、どのくらいの量食べた、あるいは飲んだのかを確認してください。

最も危ないのが吸い殻をつけてある水（ニコチンの浸出液）を飲んだときです。応急処置としては胃の中のものを吐かせ、場合により胃洗浄を行います。かかりつけ医と相談するか、小児救急対応医療機関を受診してください。

また、タバコの葉を2 cm以上食べた場合もできるだけ早く受診してください。

誤飲時に嘔吐を目的とする飲水をすることは家庭ではしない方がよいようです。飲水後、必ずしも嘔吐させることができるものではなく、かえってタバコに含まれるニコチンの溶出を早めることになるため、飲水は避けた方がよいと考えられます。